



2023 年度 日本臨床歯科補綴研修会

「基本8ヵ月 Web コース」の開催 によせて

皆様には、平素より本研修会の活動にご理解賜り、感謝致しております。この「基本8ヵ月 Web コース」は、大学等のアンダーグラジュエートでは学ぶことがなかった診断と治療に不可欠な重要事項を、できるだけ臨床に即して具体的にお伝えすることが使命であるとの信念のもとに、これまで33年にわたって継続して開催して参りました。

歯科の果たす役割は、歯列をはじめとする顎口腔系の再建と保全による諸機能の維持・増強で、そこには絶大な価値があります。これによりフレイルを予防しQOLを向上させることができ、人生100年時代にあって国民の健康寿命延伸に大きく貢献できます。

特に“歯科だけができる咬合治療”では、顎関節と筋の診断を的確に行って顎口腔系と調和を図ることが重要で、顎口腔機能の回復ばかりでなく中枢や全身の健康維持にまで大きく関与します。私達の専門領域である顎口腔系の診断と治療、そして保全にかかわる基準を「基本8ヵ月 Web コース」で、是非一緒に確認し修得して下さい。

Web コースを受講して下さった方々から、コロナ禍以前の東京・大阪・福岡の各会場に集まって行っていた時よりも、Web コースの方が自分のパソコンで視聴できるので、スライドがよく見えて1年中何時でも何処でも、何度も繰り返し受講できて、とても有効だとの感想をいただきました。そして、Web セミナーは是非とも続けてほしいとの要望を沢山いただきましたので、今後も引き続き継続することに致しました。

まず、この「基本8ヵ月 Web コース」の快適な環境のなかで、診査・診断と治療の基準を楽しく学んでいただきたく、お願い申し上げます。

次いで、対面の実習を通して確実に“治療の技能”を修得し、その成果を臨床の現場で患者さんに還元できるようにすることが極めて大切です。そのため、今年も「実習に特化した6日間対面コース」を開催致しますので、こちらにもご参加下さることをお勧め致します。

私達が、今後さらに歯科医療者として多くの方々の役に立てるよう、共に研鑽していきましょう。どうぞ宜しくお願い致します。

日本臨床歯科補綴研修会 基本8ヵ月コース 代表講師 小出 馨



2023 年度 日本臨床歯科補綴研修会

「実習に特化した6日間対面コース」の ご案内

皆様には、平素より本研修会の活動にご理解賜り「基本8ヵ月 Web コース」をご受講下さって、感謝致しております。実際の歯科臨床で結果を導き出すには、まず“理論”を知り十分に認識すること、次いで実習と実践を通して“技能”を修得することが極めて重要です。昨年は、基本8ヵ月 Web コースをご受講下さった歯科医師の方々からの強い要望にお応えして、Web コースに即した「実習に特化した4日間コース」を東京で2回開催致しました。皆で細心の注意を払い十分な感染防止対策を図って、3年ぶりに対面で開催させていただきました。実に内容の濃い実習コースになり、皆さんといろいろなお話も出来てとても有意義で楽しかったです。

今年は、9月から「実習に特化した6日間対面コース」を東京と福岡で開催致します。昨年の4日間コースから6日間コースに日数を増やして、更に充実した実習内容を準備して居ります。

新規受講の対象は、「基本8ヵ月 Web コース」を2020年～2022年に受講され、現在オブザーバー登録をしていらっしゃる方々と、今年2023年度の基本8ヵ月 Web コースを新規で受講していらっしゃる方々で、いずれもこれまでに実習を経験していらっしゃらない方々とさせていただきます。

この「実習に特化した6日間コース」のオブザーバー受講は、これまでコロナ以前に対面での基本8ヵ月コースをご受講し実習を体験なさった方々と、昨年対面で「実習に特化した4日間コース」をご受講下さった方が対象になります。

基本8ヵ月 Web コースで診査・診断そして治療の基準をおさえ、実習を通して確実に“治療の技能”を修得することにより、今後さらに歯科医療者として多くの方々の役に立てるよう、共に研鑽に励んでいきましょう。どうぞ宜しくお願い致します。

日本臨床歯科補綴研修会 実習6日間対面コース 代表講師 小出 馨



小出 馨（こいで かおる）日本歯科大学名誉教授

【略歴】

- 1953 年 新潟県新潟市生まれ
- 1979 年 日本歯科大学新潟歯学部卒業
- 1983 年 日本歯科大学大学院修了
- 1988 年 カナダ・トロント大学歯学部補綴学教室客員教授（2006 年まで）
- 1989 年 日本歯科大学新潟歯学部歯科補綴学教室第 1 講座助教授
- 1998 年 日本歯科大学新潟生命歯学部歯科補綴学第 1 講座主任教授
日本歯科大学大学院新潟生命歯学研究科機能性咬合治療学主任教授
- 1999 年 日本歯科大学新潟歯学部附属病院顎関節外来統括責任者併任（2003 年まで）
- 2001 年 日本歯科大学新潟歯学部附属病院技工科長, 技工研修科長併任（2003 年まで）
- 2022 年 日本歯科大学名誉教授

【主な受賞等】

- 2002 年 日本補綴歯科学会・優秀論文賞
- 2008 年 アジア歯科補綴学会・最優秀学会発表賞
- 2015 年 日本補綴歯科学会・学会賞
- 2016 年 日本スポーツ歯科医学会・学会賞

【主な現在の役職等】

日本補綴歯科学会名誉会員、日本全身咬合学会副理事長、日本臨床歯科補綴学会顧問、国際口腔インプラント会議日本部会副会長、日本スポーツ歯科医学会理事、日本咀嚼学会理事、日本顎関節学会評議員、日本顎咬合学会評議員、日本接着歯学会理事、日本審美歯科学会評議員、日本臨床歯科学会学術委員会顧問、日本咀嚼学会倫理審査委員会委員、日本スポーツ歯科医学会学術委員会委員、日本咀嚼学会倫理委員会委員

【研究開発・特許等】

- ・プロアーチ咬合器Ⅰ型, Ⅱ型, Ⅲ型, ⅢE型, Ⅳ型, Ⅰ-G型, Ⅱ-G型, ⅢE-G型
- ・プロアーチ・フェイスボウ
- ・プラスターレス咬合器ドリーム
- ・リンガライズドオクルージョン用硬質レジン 4 歯連結プレート 臼歯：e-HaQ クワトロブレード
- ・パーシャルデンチャー用硬質レジン臼歯人工歯：e-Ha 8 ポステリア
- ・硬質レジン前歯人工歯：e-Ha 6 アンテリア
- ・リンガライズドオクルージョン用解剖学的硬質レジン臼歯人工歯：Bio-Lingua
- ・人工歯排列用テンプレート（プロアーチ咬合器用）
- ・プロアーチ・オクルーザルプレーン・アナライザー
- ・プロソマチック・ゴシックアーチトレーサー
- ・パラジェット義歯重合弾性材埋没システム
- ・デンタルマルチルーラー
- ・プロアーチ咬合器Ⅰ型用ツインプレート
- ・身体動態測定解析システム（頭位・姿勢・足圧・重心動揺）

その他 85 件

【近年の主な臨床関連書籍】

- ・DAWSON・FUNCTIONAL OCCLUSION 監訳【改訂新版】（医歯薬出版 2013）
- ・チェアサイドで行う顎機能診査のための基本機能解剖―第 7 版―（医歯薬出版 2017）
- ・クリニカルクラスプデンチャー―第 5 版―（医歯薬出版 2018）
- ・新版・小出 馨の臨床が楽しくなる咬合治療（デンタルダイヤモンド 2019）
- ・デザインング・コンプリートデンチャー（医歯薬出版 2019）
- ・基本クラスプデンチャーの設計―新版―（医歯薬出版 2020）
- ・臨床機能咬合学―咬合の 7 要素によるオクルージョンの臨床（医歯薬出版 2022）

以上

基本8ヵ月webコース テーマと参考書籍

各回の内容

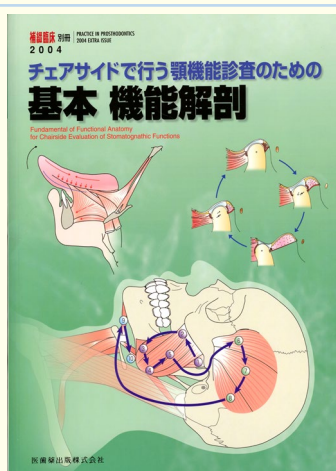
- | | |
|--------------------------------|-------|
| ① 顎機能の診査・診断-Ⅰ（筋,咬合） | 8月配信 |
| ② 顎機能の診査・診断-Ⅱ（顎関節） | 9月配信 |
| ③ 顎関節症の治療,顎位の決定基準 | 10月配信 |
| ④ 顎機能に調和した補綴物の製作 | 11月配信 |
| ⑤ 咬合の7要素：固定性と可撤性の予知性を高める咬合構成基準 | 12月配信 |
| ⑥ 総義歯臨床のための診査・診断 | 1月配信 |
| ⑦ パーシャルデンチャーの的確な設計システム | 2月配信 |
| ⑧ リジッドサポートの有効性と設定基準 | 3月配信 |

参考書籍

以下の6冊は、本8ヵ月コースの内要を示す参考書籍になります。
お持ちでないものがありませんでしたら、前もって各自でご用意下さい。



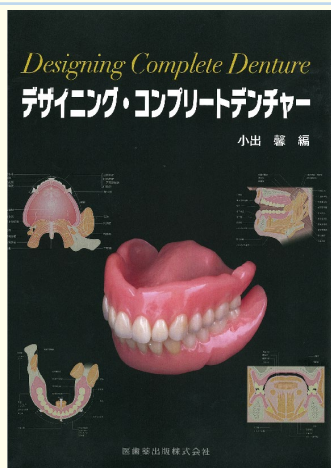
新版 小出馨の臨床が楽しくなる咬合治療
デンタルダイヤモンド出版 定価9500円
①～⑤で主に関連します。



チェアサイドで行う顎機能診査のための基本機能解剖
医歯薬出版 定価6000円
①～③で主に関連します。



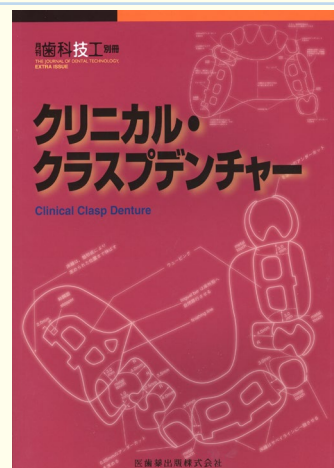
臨床機能咬合学 書籍版
医歯薬出版 定価7000円
①～⑤で主に関連します。



デザイン・コンプリートデンチャー 書籍版
医歯薬出版 定価7000円
⑥で主に関連します。



基本 クラスプデンチャーの設計 書籍版
医歯薬出版 定価7000円
⑦⑧で主に関連します。



クリニカル・クラスプデンチャー
医歯薬出版 定価5000円
⑦⑧で主に関連します。

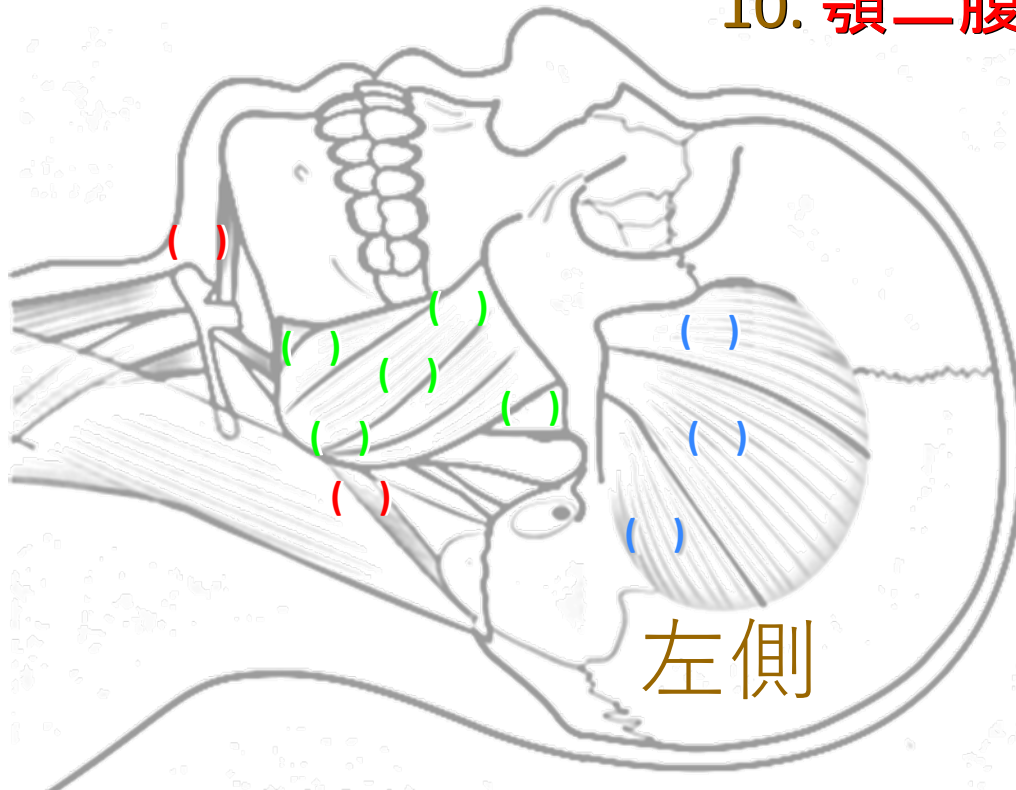
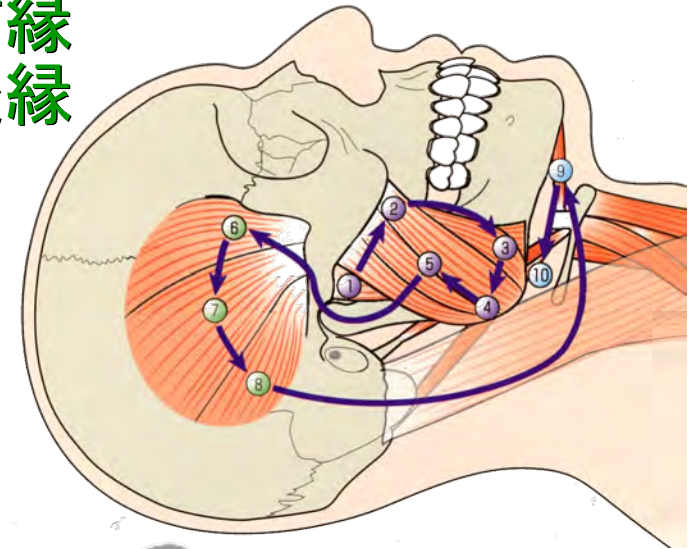
筋触診の評価

— : 痛くない
± : 異和感あり
+ : 痛い
++ : かなり痛い
+++ : 激しく痛い

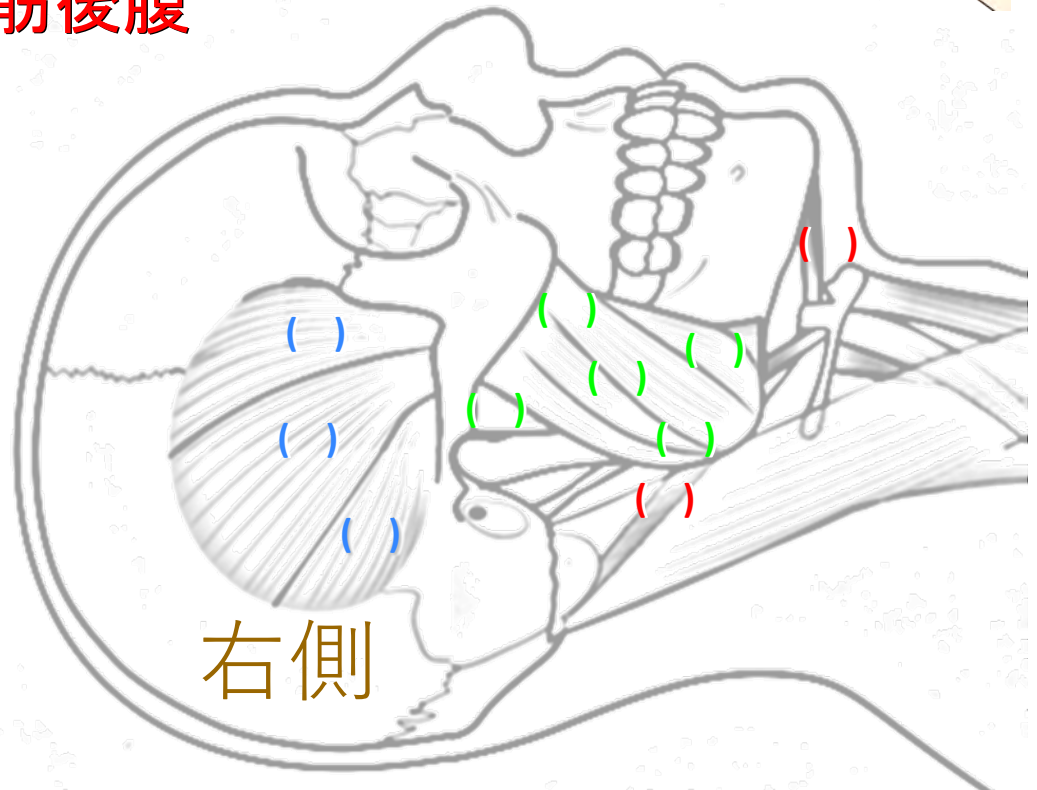
図中の()で示す筋の特定部位へ
赤ペンで上の記号を記入する。

1. 咬筋深部
2. 咬筋浅部起始部
3. 咬筋浅部停止部前縁
4. 咬筋浅部停止部後縁
5. 咬筋浅部中央
6. 側頭筋前部
7. 側頭筋中部
8. 側頭筋後部
9. 顎二腹筋前腹
10. 顎二腹筋後腹

患者氏名 _____
術者氏名 _____



左側



右側

顎関節の触診4種

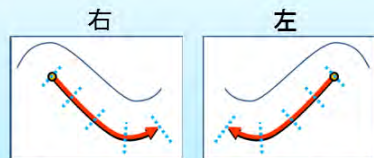
患者氏名

術者氏名

1 側方からの診査 (顎関節スクリーニング)

異常が疑われる場合 2 へ

滑走距離
(滑走制限)



	右	左
運動痛	()	()
滑走の遅延	()	()
クリッキング	()	() *
クレピテーション	()	() Δ
圧 痛	()	()

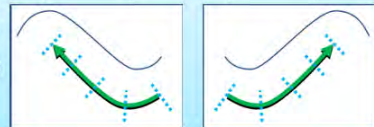
2 後方からの診査 (コンプレッションの診断)

	右	左
後方への押し込み	()	()
圧 痛	()	()

3 下方からの診査 (レシプロカルクリックの診断)

クリックを触知した場合 3 へ

クリックの触知
クリックの位置
(ラクセイションク
リックがある場合)



	右	左
圧 痛	()	()

4 上関節腔の滑走状態の診査 (顎関節円板介在の有無の診断)

陳旧性クローズドロックが疑われる場合 4 へ

	右	左
円板介在の触知	()	()
圧 痛	()	()

顎関節の触診4種

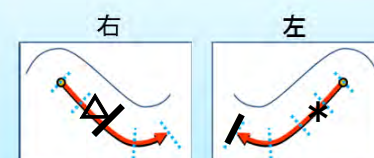
患者氏名

術者氏名

1 側方からの診査 (顎関節スクリーニング)

異常が疑われる場合 2 へ

滑走距離
(滑走制限)



	右	左
運動痛	(+)	(-)
滑走の遅延	(+)	(+)
クリッキング	(-)	(+) *
クレピテーション	(+)	(-) Δ
圧 痛	(++)	(++)

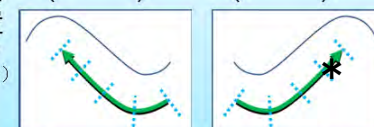
2 後方からの診査 (コンプレッションの診断)

	右	左
後方への押し込み	(+)	(+)
圧 痛	(+)	(±)

3 下方からの診査 (レシプロカルクリックの診断)

クリックを触知した場合 3 へ

クリックの触知
クリックの位置
(ラクセイションク
リックがある場合)

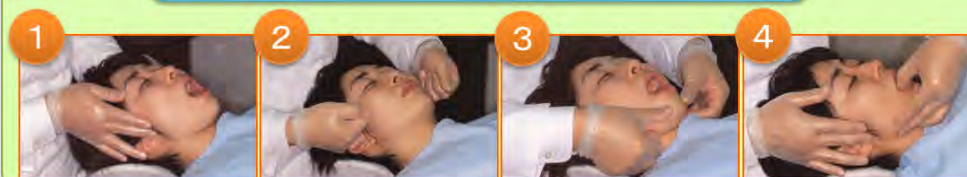


	右	左
圧 痛	(++)	(+)

4 上関節腔の滑走状態の診査 (顎関節円板介在の有無の診断)

陳旧性クローズドロックが疑われる場合 4 へ

	右	左
円板介在の触知	(-)	(+)
圧 痛	(++)	(+)



顎関節の診査用紙

【筋の触診】	(右)	(左)	【筋の触診】	(右)	(左)	【筋の触診】	(右)	(左)
咬筋深部	()	()	咬筋深部	()	()	咬筋深部	()	()
咬筋浅部	起始部	()	咬筋浅部	起始部	()	咬筋浅部	起始部	()
咬筋浅部	停止部前縁	()	咬筋浅部	停止部前縁	()	咬筋浅部	停止部前縁	()
咬筋浅部	停止部後縁	()	咬筋浅部	停止部後縁	()	咬筋浅部	停止部後縁	()
咬筋浅部	中央部	()	咬筋浅部	中央部	()	咬筋浅部	中央部	()
側頭筋 前部	()	()	側頭筋 前部	()	()	側頭筋 前部	()	()
側頭筋 中部	()	()	側頭筋 中部	()	()	側頭筋 中部	()	()
側頭筋 後部	()	()	側頭筋 後部	()	()	側頭筋 後部	()	()
顎二腹筋 前腹	()	()	顎二腹筋 前腹	()	()	顎二腹筋 前腹	()	()
顎二腹筋 後腹	()	()	顎二腹筋 後腹	()	()	顎二腹筋 後腹	()	()

【顎関節の診査】		右	左	【顎関節の診査】		右	左	【顎関節の診査】		右	左
運動痛	() ()	()	()	運動痛	() ()	()	()	運動痛	() ()	()	()
圧痛	() ()	()	()	圧痛	() ()	()	()	圧痛	() ()	()	()
滑走遅延	() ()	()	()	滑走遅延	() ()	()	()	滑走遅延	() ()	()	()
滑走距離制限	() (mm) () (mm)	()	(mm)	滑走距離制限	() (mm) () (mm)	()	(mm)	滑走距離制限	() (mm) () (mm)	()	(mm)
後方への圧迫	() ()	()	()	後方への圧迫	() ()	()	()	後方への圧迫	() ()	()	()
クリック	() ()	()	()	クリック	() ()	()	()	クリック	() ()	()	()
クレピーション	() ()	()	()	クレピーション	() ()	()	()	クレピーション	() ()	()	()
滑走時の抵抗	() ()	()	()	滑走時の抵抗	() ()	()	()	滑走時の抵抗	() ()	()	()
開口量	() () (mm)	()	(mm)	開口量	() () (mm)	()	(mm)	開口量	() () (mm)	()	(mm)

顎関節音の聴診

1. レシプロカルクリックやクレピテーションなどの顎関節音の検査は、**病態診断**上きわめて**有益**.
2. 通常の聴診器(ステスコープ)では、全ての音が混在するので診断しづらい.
3. **ステレオ・ステスコープ**では、立体的に音を聴取できるため、対側の関節音を分離して診査でき、**診断が遙かに容易**.
4. 顎関節の聴診には、小児用チェストピースが適す.
5. **ダイアフラム**(フィルム面)ではなく**ベル**を使用する.
6. 側頭骨**関節結節部**にチェストピースをあて、最大開閉口運動時の関節音を聴取する.
7. 聴診器は、原則として術者間での**共用は避ける**.



プロソマチックアナライザー

